



平成29年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成29年1月31日

上場会社名 日本調剤株式会社 上場取引所 東
 コード番号 3341 URL http://www.nicho.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 三津原 博
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 (氏名) 鎌田 良樹 TEL 03-6810-0800
 四半期報告書提出予定日 平成29年2月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年3月期第3四半期の連結業績（平成28年4月1日～平成28年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第3四半期	166,051	4.7	6,101	△17.0	5,773	△16.2	3,307	△23.2
28年3月期第3四半期	158,645	18.1	7,353	59.3	6,889	68.0	4,305	91.8

(注) 包括利益 29年3月期第3四半期 3,446百万円 (△21.4%) 28年3月期第3四半期 4,385百万円 (89.7%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年3月期第3四半期	206.81	—
28年3月期第3四半期	303.88	—

※当社は、平成27年10月1日を効力発生日として、1株につき2株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり四半期純利益を算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
29年3月期第3四半期	170,626	35,104	20.6
28年3月期	157,609	32,473	20.6

(参考) 自己資本 29年3月期第3四半期 35,104百万円 28年3月期 32,473百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年3月期	—	40.00	—	25.00	—
29年3月期	—	25.00	—	—	—
29年3月期(予想)	—	—	—	25.00	50.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無：無

※当社は、平成27年10月1日を効力発生日として、1株につき2株の割合で株式分割を行っております。平成28年3月期の第2四半期末配当金については、当該株式分割前の金額を記載しております

3. 平成29年3月期の連結業績予想（平成28年4月1日～平成29年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	222,888	1.7	7,985	△23.9	7,907	△20.0	4,347	△31.3	271.78

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：有
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

詳細は、添付資料4ページ「サマリー情報（注記事項）に関する事項」をご覧ください。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	29年3月期3Q	16,024,000株	28年3月期	16,024,000株
② 期末自己株式数	29年3月期3Q	29,348株	28年3月期	29,068株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	29年3月期3Q	15,994,805株	28年3月期3Q	14,169,913株

※当社は、平成27年10月1日を効力発生日として、1株につき2株の割合で株式分割を行っております。平成28年3月期3Qの期中平均株式数は、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算定しております。

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビューの対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続は完了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(1) 将来に関する記述等についてのご注意

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、現在入手している情報による当社の判断及び仮定に基づく目標値であり、リスクや不確実性を含んでいます。またその達成を当社として約束する趣旨のものではありません。実際の業績は、今後様々な要因により、これら業績予想等とは大きく異なる結果となる場合があります。

(2) 四半期決算補足説明資料の入手方法

四半期決算補足説明資料については、T D n e tにて本日開示し、当社ホームページへも掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間（平成28年4月～12月）において、医薬品・調剤薬局業界では4月に調剤報酬及び薬価の改定が行われました。今回の改定は、“医薬分業に対する厚生労働省の基本的な考え方”に沿った調剤報酬改定が実施され、薬価の引き下げも併せて、当社グループの業績はマイナスの影響を受けることとなりました。当社グループにとって大変厳しい経営環境とはなりましたが、“患者本位の分業を実現する”との改定の主旨を踏まえ、かかりつけ薬剤師としての服薬指導等の推進、ジェネリック医薬品の使用促進などに全社を挙げて積極的に取り組みました。

当社グループの当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高166,051百万円（前年同期比4.7%増）、利益面においては、改定に伴うマイナスの影響等を増収効果で補い切れず、営業利益6,101百万円（同17.0%減）、経常利益5,773百万円（同16.2%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益3,307百万円（同23.2%減）と減益となりました。

セグメント別の業績状況は以下のとおりであります。

①調剤薬局事業

同事業では、当第3四半期連結累計期間において34店舗を新規出店し、8店舗を閉局いたしました。この結果、当第3四半期連結会計期間末時点での総店舗数は553店舗（物販専業1店舗を含む）となりました。調剤報酬につきましては、改定の影響により一時的に減少しましたが、新たな取り組みであるかかりつけ薬剤師としての服薬指導等の推進、ジェネリック医薬品使用促進による後発医薬品調剤体制加算の積上げなどにより、当第3四半期連結会計期間末時点では、前年同期の水準を越えるまでに改善することができました。ジェネリック医薬品の使用促進につきましては、政府目標として示されました80%を越えた以降も取り組み姿勢を緩めることなく、全社をあげて積極的に取り組んだ結果、ジェネリック医薬品の数量ベース使用割合は81.3%に達しました。在宅医療の実施店舗割合は94.7%と引き続き非常に高い水準を実現しております。また、自社開発の電子お薬手帳「お薬手帳プラス」につきましては、店舗における患者さまなどへの積極的なお勧めに加え、機能改修・改善など利用者の利便性向上にも努めた結果、登録会員数が12万人を越え、引き続き高い水準で増加傾向を示しています。売上高につきましては、薬価の引き下げなどの改定によるマイナスの影響はありましたが、M&Aを含めた新規出店効果、前年出店店舗の寄与などにより、140,758百万円（前年同期比2.1%増）と増収となりました。一方、利益面においては、薬価改定直後の影響に加え、診療報酬改定等の影響により処方せん応需枚数が想定を下回ったことなどにより、各種経費の増加を増収効果などで補い切れず、営業利益6,699百万円（同6.3%減）と減益となりました。

②医薬品製造販売事業

同事業では、当第3四半期連結累計期間において、4月の薬価改定により販売価格が低下したものの、一方で4月の診療報酬改定により各医療機関におけるジェネリック医薬品の使用が引き続き増加傾向にあったことに加え、グループ会社間の連携を一層進めたことにより、売上高は27,634百万円（前年同期比13.5%増）と増収となりました。一方、利益面においては、今後の市場拡大を見据えた積極的な投資活動などによる原価並びに費用の増加、新製品を中心としたジェネリックメーカー間の価格競争の激化などのマイナス要因を増収効果で補い切れず、営業利益1,410百万円（同35.9%減）と減益となりました。なお、販売品目数につきましては、6月に24品目、12月に12品目の新製品を発売する一方で、グループ会社間における重複品目の整理などを進めました結果、当第3四半期連結会計期間末で614品目となりました。

③医療従事者派遣・紹介事業

同事業では、薬剤師の業務が増加し派遣・紹介の需要が引き続き高い水準で推移する状況を背景に、派遣・紹介先の新規開拓による求人数の増強及び登録者数の確保などの取り組みを着実に進めることにより、当第3四半期連結累計期間における売上高は7,675百万円（前年同期比19.6%増）と増収となりました。一方利益面においては、薬剤師確保に向けたWEBへの広告掲載料の高騰による経費増加などにより利益率は若干低下しましたが、営業利益は1,225百万円（同8.7%増）を確保し増益となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産は170,626百万円となり、前連結会計年度末に対して13,016百万円、8.3%増加いたしました。流動資産は79,836百万円となり、前連結会計年度末に対して5,002百万円、5.9%の減少となりました。主な要因は、現金及び預金の減少等であります。固定資産は90,790百万円となり、前連結会計年度末に対して18,019百万円、24.8%の増加となりました。主な要因は、建設仮勘定の増加等であります。

負債は135,521百万円となり前連結会計年度末に対して10,384百万円、8.3%の増加となりました。主な要因は、長期借入金の増加等であります。

純資産は35,104百万円となり前連結会計年度末に対して2,631百万円、8.1%の増加となりました。主な要因は、利益剰余金の増加等によるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社では、平成28年4月28日付で公表しました通期の連結業績予想を修正しております。詳細につきましては、本日付で公表しました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用
該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
(会計方針の変更)

(平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱いの適用)

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」（実務対応報告第32号 平成28年6月17日）を第1四半期連結会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備（工場生産設備を除く）及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

なお、この変更による当第3四半期連結累計期間の四半期連結財務諸表に与える影響は軽微であります。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	32,385	17,687
受取手形	197	349
売掛金	25,839	26,262
電子記録債権	774	1,584
商品及び製品	15,328	22,812
仕掛品	1,993	2,014
原材料及び貯蔵品	4,695	5,662
その他	3,635	3,474
貸倒引当金	△10	△12
流動資産合計	84,838	79,836
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	21,537	22,510
土地	17,188	17,966
建設仮勘定	2,807	9,707
その他(純額)	10,464	13,181
有形固定資産合計	51,997	63,366
無形固定資産		
のれん	8,507	14,318
その他	1,615	2,176
無形固定資産合計	10,122	16,495
投資その他の資産		
投資有価証券	945	1,073
敷金及び保証金	6,932	7,105
その他	2,773	2,749
投資その他の資産合計	10,650	10,928
固定資産合計	72,770	90,790
資産合計	157,609	170,626

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	41,989	42,275
電子記録債務	2,664	2,543
短期借入金	-	5,600
1年内償還予定の社債	7,000	-
1年内返済予定の長期借入金	5,963	12,442
未払法人税等	2,745	316
賞与引当金	2,249	1,276
役員賞与引当金	138	-
その他	6,234	7,620
流動負債合計	68,985	72,074
固定負債		
長期借入金	50,621	58,358
役員退職慰労引当金	957	924
退職給付に係る負債	1,157	1,285
その他	3,414	2,878
固定負債合計	56,151	63,446
負債合計	125,136	135,521
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,953	3,953
資本剰余金	10,926	10,926
利益剰余金	17,672	20,166
自己株式	△44	△45
株主資本合計	32,507	35,000
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	196	285
退職給付に係る調整累計額	△231	△181
その他の包括利益累計額合計	△34	103
純資産合計	32,473	35,104
負債純資産合計	157,609	170,626

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
売上高	158,645	166,051
売上原価	130,386	137,190
売上総利益	28,259	28,860
販売費及び一般管理費	20,905	22,759
営業利益	7,353	6,101
営業外収益		
受取手数料	101	106
受取賃貸料	283	300
保険返戻金	-	74
その他	132	131
営業外収益合計	517	613
営業外費用		
支払利息	600	524
支払手数料	18	13
支払賃借料	213	240
その他	148	163
営業外費用合計	981	941
経常利益	6,889	5,773
特別利益		
固定資産売却益	22	3
特別利益合計	22	3
特別損失		
減損損失	99	57
固定資産売却損	-	6
特別損失合計	99	63
税金等調整前四半期純利益	6,812	5,713
法人税、住民税及び事業税	2,213	1,787
法人税等調整額	293	617
法人税等合計	2,506	2,405
四半期純利益	4,305	3,307
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	4,305	3,307

(四半期連結包括利益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)
四半期純利益	4,305	3,307
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	39	88
退職給付に係る調整額	40	49
その他の包括利益合計	79	138
四半期包括利益	4,385	3,446
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	4,385	3,446
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)	四半期連結損 益計算書計上 額
	調剤薬局 事業	医薬品製造 販売事業	医療従事者 派遣・紹介 事業	計		
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	137,844	15,104	5,695	158,645	-	158,645
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	5	9,249	724	9,978	△9,978	-
計	137,850	24,354	6,419	168,624	△9,978	158,645
セグメント利益又は損失(△)	7,147	2,201	1,127	10,476	△3,122	7,353

(注) セグメント売上高合計及びセグメント利益合計と、四半期連結損益計算書の売上高及び営業利益との調整を行っております。なお、セグメント利益又は損失の調整額△3,122百万円にはセグメント間取引消去△94百万円及び全社費用△3,027百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「調剤薬局事業」セグメントにおいて、店舗資産(4店舗)の減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は99百万円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)	四半期連結損 益計算書計上 額
	調剤薬局 事業	医薬品製造 販売事業	医療従事者 派遣・紹介 事業	計		
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	140,749	18,019	7,282	166,051	-	166,051
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	9	9,615	392	10,017	△10,017	-
計	140,758	27,634	7,675	176,068	△10,017	166,051
セグメント利益又は損失(△)	6,699	1,410	1,225	9,335	△3,234	6,101

(注) セグメント売上高合計及びセグメント利益合計と、四半期連結損益計算書の売上高及び営業利益との調整を行っております。なお、セグメント利益又は損失の調整額△3,234百万円にはセグメント間取引消去△9百万円及び全社費用△3,224百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「調剤薬局事業」セグメントにおいて、店舗資産(2店舗)の減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は57百万円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

「調剤薬局事業」セグメントにおいて、事業譲受及び株式取得により調剤薬局店舗17店舗を買収しております。当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間においては6,352百万円であります。